

水切りで一石二鳥 ごみ減量と焼却炉の負担軽減



ごみ分別アプリ

シリーズ「ごみ減量をいかにして成功させるか」④

家庭から出る燃やすすかないごみの約50%は水分。水分を減らせばごみ減量につながり、重いごみを運ぶのも楽になります。今回は水分量を減らすポイントを紹介いたします。

【問】市生活環境課リサイクル推進係 ☎88・8933

ごみの中に水分が多いと焼却費用が増加

家庭から出された燃やすすかないごみは、収集後に有明ひまわりセンターへ搬入されます。搬入されたごみは焼却されますが、水分を多く含んでいると「水を燃やしている」ことになり、思うようにごみを燃やすことができせん。そのため、焼却に多くの時間と燃料がかかり、結果として、施設の寿命が短くなることにつながります。焼却費用は皆さんの税金で賄われています。少しでも水分を少なくすることが焼却費用の削減につながります。



水分量を減らすポイント

2つのポイントを心がけ、燃やすすかないごみの水分量削減にご協力ください。

●ポイント① 濡らさないこと

皆さん野菜などを切った後、切りくずをそのままシンクに入れていませんか。シンクは皿を洗ったりするため、水分が付着します。調理をするときは、まな板の横にビニール袋などを置いて、切りくずはその中に入れるよう心がけましょう。

■令和3年8月の可燃ごみの量

柳川市	みやま市
1311トン	544トン

■令和4年8月の可燃ごみの量

柳川市	みやま市
1271トン	447トン

8月の市内の可燃ごみの量は前年同月に比べ約3%減少。みやま市の可燃ごみの量は前年同月に比べ約17%減少しました。

■3～8月の可燃ごみの割合

柳川市	みやま市
74%	26%



●ポイント② 水を切ること

朝夕の忙しい時間に野菜を切るたびに袋に入れるなど、細かい作業をする時間は取れない人が多いと思います。そんなときは、最後に「水を切る」ことを意識してください。ほんの少し水を絞るだけで、ごみの重さが驚くほど減ります。水切りのお助けアイテムとして水切りネットや水切り袋がホームセンターやドラッグストアで販売されています。ぜひ活用ください。

電動生ごみ処理機のレンタル、購入補助を行います

市は、家庭で発生する生ごみの減量のため、電動生ごみ処理機の購入補助を行っています。補助額は購入費の3分の2で上限5万円です。また、最大1カ月の無料レンタルも実施しています。興味がある人は、市生活環境課までお問い合わせください。



【問】購入補助＝同課リサイクル推進係 ☎88・8933、レンタル＝同課環境係 ☎77・8485

よくあるお問い合わせ

Q 燃やすすかないごみ袋はどのように結んだらよいですか？

A においや水漏れ対策のため、ごみ袋は必ず二重に結ぶようにしてください。片側しか結ばないとにおいが漏れたり、ごみ袋の間からカラスがつついたりしてごみが散乱するおそれがあります。



柳川とっておき歴史の話－立花宗茂外伝－第14回

【問】市観光課観光推進係 ☎77・8563



厳しくも頼れる立花家の重臣 由布雪下

勇将が揃う立花家にあつて、「天資英邁にして剛毅也」

（『旧柳川藩志』）

と称えられた人物が、後世、花四天王の筆頭に数えられた、由布雪下（諱は惟信、通称は源兵衛、源五兵衛、美作守など）でした。

由布氏は大友家の家臣でしたが、雪下は戸次道雪に従い、筑前立花城（現・福岡県糟屋郡久山町）と新宮町、福岡市東区にまたがる）に入城しています。

主君の道雪はある時、小野和泉（諱は鎮幸）と共に雪下を召して、中国の兵学書『孫子』にある「奇正相生」の言葉を引き、「凡そ戦は正法を以て引き分けとし、奇法を以て勝ちとする。今日からおぬしらは正・奇戦法を取ってもらいたい。惟信が正軍の将であるなら、鎮幸が奇軍の将となり、明日はそれを入れ替えるようにせよ」（『旧柳川藩志』）を筆者が意識する）と述べています。これほどの武将ですから、立花

家の養子となった宗茂にも、雪下はあえて厳しく接します。

13歳の宗茂が道雪に従って、山道を歩いてきたおりのこと。

「栗の毛毬が足に刺さったので、これを抜いてほしいと言ったところ、雪下が走り寄ってきて、抜くどころか逆に、もつと（足へ）押し込んだので、非常に痛かったが、そうともいえず、大いに難儀したことがあった」

この時の宗茂は、涙目となつていたに違いありません。

立派な戦国武将になるための、これも教育でした。戦場にあつて、苦境に追い詰められても、誰も助けてはくれません。

自らの心身を鍛える以外に、生き残る道はなかったのです。

道雪の心を汲み、支えた雪下は、宗茂が豊臣政権下で柳河13万2000石を与えられたおりに、筑後三潴郡の酒見城（現・福岡県大川市大字酒見）へ配されます。このとき立花家の家老は、小野和泉（5000石）、由布雪下（3500石）、矢島采女（2000石）

と十時摂津（1300石）の4人でした。

関ヶ原の戦いで、西軍の敗戦により宗茂が改易となったのちも、小野和泉が加藤家へ仕官する中、雪下は主君に従い、浪々の生活を共にした19名（実際は20数名）に含まれていました。

慶長11（1606）年、宗茂が2代将軍・徳川秀忠から奥州南郷に柵倉（現・福島県東白川郡



酒見城跡（大川市大字酒見）

柵倉町）1万石の大名に封じられると、雪下は現地へ赴いています。結局、雪下自身は宗茂の柳河復帰をその目で見ることもなく、慶長17年6月に奥州にて没しましたが（一説に、享年は86）、子孫は立花姓を賜わり、立花壱岐守を名乗り、柳河藩家老として幕末まで続きました。

■文Ⅱ 加来耕三

（つづく）